

保育計画成果報告書

法人名等	学校法人道德学園
施設名	わくわくの森保育園
報告者（役職）	安東 美香（園長）
住所・連絡先	大分市大字野田 3 2 3-5
	☎ 0 9 7-5 8 6-0 9 0 9
	E-mail info-wakuwaku@nodayama.jp

○タイトル（保育計画）

乳児の遊びと環境づくり

○主な助成備品

絵本・絵本棚・カーペット・ジョイントマット・木製の玩具・テーブル・椅子等

1. 保育計画策定の目的

当園は、平成30年度に開所した、緑あふれる自然いっぱいの広大な園庭（同敷地内連携施設「のだ山幼稚園」と共同利用）が特徴の小規模保育施設である。幼稚園と同一敷地内に新規開所ということもあり、他園からの転園の子どもが多く、今まで生活してきた園での習慣が身についていることもあって保育に苦慮しました。必要な時期に適切なおもちゃで十分な遊びができていない子どもが多かった2歳児クラス（園児数10名）を対象として、本当に子どもたちにとっての良い玩具はなんだろうかということに鑑み、上記の玩具などの導入をさせていただきました。子どもたちが主体的かつ対話的に遊びを通して深く学べるようにするため、また当園の保育の方向性として、保育室の絵本・玩具・保育家具の環境整備の充実を目的としました。

2. 具体的な実施内容

保育室の中を①絵本②机上遊び③積み木・構造遊び④ままごと・模倣遊びの4つの空間に分け、園児の直感的な遊びの要求に応じることができるよう、収納棚や衝立を利用し視覚的・空間的に最適な場所へ絵本や玩具を用意しました。また園児の想像力や創作意欲に制限がかからないように物量的にも確保し、発達に応じた遊びが展開できるようにしました。

3. その成果と評価

子どもたちそれぞれがしたい遊び・好きな遊びを主体的にかつ十分行える空間の確保・遊びの保障をすることによって、毎日の生活に安心感や期待感が生まれてきたように感じています。つぎに、今回保育室の環境づくりを目的とした内容について報告します。

① 絵本について

一日の中で絵本の読み聞かせは、保育士にとって子どもたちと1対1で関われる貴重な時間として、当園が毎日とても大事にしている活動・時間です。特に、絵本棚が配置され、絵本が充実したことで子どもたちがより沢山の絵本に触れることができ、好きな絵本を指さしたり、自分で持ってきては担任に読み聞かせをせがむほど大好きな時間になってきました。また、昨年1年間の読み聞かせを通じて、わずか0・1・2歳の子どもたちですが、絵本のページをめくれば、そのお話のフレーズが言葉として自然に出てくるまでになり、遊びの中でも想像力も膨らんできていることを実感しています。絵本から実体験へと繋がる体験は、乳幼児期のとても良い経験・学びの一つとして、これから生きていく力へと繋がっていくと信じています。今後も日々の活動を通じて、乳幼児期に培うべき力が育まれていることを十分に感じ、絵本からの育ちの大切さを念頭に保育を行っていきたいと思います。



② 机上遊び

机上遊びとして、ロンディという円盤の切り込みをかみ合わせて、色々な形を作る造形遊びの導入を行ってみました。長い蛇にしたり、乗り物にしたりと、想像力をかきたて、集中して遊び込めるようになりました。また、ごっこ遊びの中では、食べ物に見立てたり、お金としても使え、遊びの用途を自分たちで広げることができています。



以前は、一人が使っていると、他の子どもが加わるのが難しかったのですが、積み木が増え、個々の遊びを保障することで、一人ひとりが思い思いに遊び込む姿が見られるようになりました。また、隣の友だちの様子を見て、積み方を真似たり、やりとりしたりするうちにイメージを共有し、連合遊びへと発展していくようになりました。また、「デュシマ社 ZOO へ行こう」を同時に導入したことで、積み木やレールセットと合わせることができ、世界が広がってきました。積み木で動物のお風呂を作ろうと、平行遊びから連合遊びへの橋渡しとなりました。また、動物の大きさも丁度良く、子どもが持ちやすく安定感のある玩具となっています。



毎日、好きな遊びを夢中になって遊び込むことができ、日々子どもたちの満足感や達成感を感じ、成長を嬉しく思っています。



4. 今後の課題と展望

今回、沢山の絵本や玩具を助成していただいたので、園の子どもに限らず、地域の子どもたちが発達に応じた文化的な玩具、良質な絵本に触れ合う機会を作っていきたいと考えています。園児には、絵本で言葉を楽しむこと、絵を楽しむこと、また物語から本当の経験として繰り返し楽しむこと・真似ることを体験させ、乳幼児期に必要な豊かな心を育んでいきたいです。絵本の読み聞かせを通じて、嬉しい気持ち・悲しい気持ちなど様々な心の移り変わりを感じ、また現代の子育ての課題でもある親と子の触れ合いについても働きかけることができるよう、保護者支援の場でも利用していきたいと思っています。

玩具も個々の成長段階に応じた玩具での遊びの中で育まれる身体の発達の促進、思考力や集中力・想像力などが、スマートフォンやタブレットが溢れる現代の家庭環境の中で一層、知育・遊び・学びとしても大いに力を発揮してくれるものであると確信しています。我々保育士一同は、いただいた助成品を十分に活用し、その時の子どもたちの年齢や発達を考慮しながら、環境を設定していきます。

保育園が子どもたちにとってワクワクする場所として存在していくことが課題であると感じますので、助成していただいた品は、これからも環境を重視した保育活動に役立てて参ります。

以上